

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372201109		
法人名	株式会社サンケイ		
事業所名	グループホームチアフル 音明かり詩明かり(詩明かり)		
所在地	愛知県一宮市北方町曾根字村裏西46-1		
自己評価作成日	平成27年8月5日	評価結果市町村受理日	平成27年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosyoCd=2372201109-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成27年9月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「生きているってすてき！」と思える家作りがわがグループホームの願い。利用者本人の尊厳を守り、認知症からくる生活障害は援助することによって、あるいはみんなと力を合わせることで、生活を送ることができるはず、と模索している。たとえ、認知症の進行があったとしても、その人ならではの役割作りに着目しながら生活している。日々の活動では天気の良い日は散歩に出かけ、認知症があっても普通に生活している様子を知らせるのがグループホームの使命だと思っている。生活の中では楽しみになること、外出や外食も積極的に行っている。夏祭りや運動会もチアフル全体の行事として地域も巻き込み行っている。又、児童館の子供たちと七夕会やXmas会で定期的に交流を持ち、昔遊びの道具を作っては子供たちと一緒に楽しんでいる。昔遊びの名人が子供たちの前で腕前を披露する顔が得意げで相互交流に意義を感じている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	①理念は職員の目の届く所に貼り出しており、毎日確認をしてから業務に入るようにしている。 ②月一度のミーティングでは職員全員で理念唱和を実施し、実践に繋げている。 ③理念を共有・意識しながら、利用者様との関わりを持つようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	①年間行事である春祭りや運動会で地域との関わりを大切にしている。 ②地域ボランティア(習字・手芸など)の交流を図っている。 ③散歩の途中に地域の方へ挨拶をし、些細な関わりを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	①ニヶ月に一度行われる運営推進会議にて、地域の方、利用者家族との交流を図り、認知症について話し合っている。 ②地域推進会議等で理解していただけるよう努力している。 ③地域の方の意見を参考にしている。 ④事業所の力を活かした地域貢献を活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	①利用者の状況、行事、ユニットごとの目標、取り組みを報告、地域の方の意見を取り入れ、サービス向上に活かしている。 ②ホーム内での活動状況などの意見交換を実施 ③ホーム内の活動状況などの意見交換を行っている。 ④運営推進会議を活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	①携わっていませんのでわかりません。 ②地域運営推進会議等で定期的に意見交換を実施 ③他事業所職員と意見交換し、サービス向上を目指している。 ④市町村との協力関係を築けるよう努力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	①具体的な行為については正しく理解できていると思う。身体拘束のないケアに取り組んでいる。 ②施錠することなく先手を打ち、身体拘束しないように努力している。 ③職員同士で身体拘束についての話し合いを実施し、身体拘束をしないケアができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	①利用者に虐待しないように、自分のメンタルが落ちている時は、他スタッフに助けをもらい、その場を離れる。絶対に虐待はしません。 ②内部研修や外部研修で学ぶ機会がある。 ③虐待は行っていない。 ④虐待の防止を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	①内部研修に参加し理解しているつもりです。 ②研修で学ぶ機会がある。 ③成年後見制度を活用し、安心して暮らせる環境がある。 ④学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	①携わっていませんのでわかりません。 ②携わっていませんのでわかりません。 ③家族に理解してもらいたい。 ④納得できる説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	①ご家族からの要望になるべく添えるように日々努力している。 ②外食、外出は利用者の要望に出来る限り答えています。 ③面会時、ご家族とのコミュニケーションを図る。 ④運営に反映されていると思う。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	①年に一度面談があり、職員の意見を反映している。 ②常に意見が言える環境である。 ③わかりません。 ④月一度のユニットミーティングを実施		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	①携わっていませんのでわかりません。 ②携わっていませんのでわかりません。 ③モチベーションを上げ、やりがいのある環境があるといい。 ④職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	①職員の教育は、根拠を述べ、考える力を身につけてもらうよう努力している。 ②携わっていませんのでわかりません。 ③一人一人のケアをもっとしてほしい。 ④勉強会の実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	①外部研修への参加を勧めてくれる。 ②携わっていませんのでわかりません。 ③勉強会での学びで向上できるよう取り組んでいる。 ④研修生の受け入れを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	①コミュニケーションを図り、本人の思いに気付き日々信頼関係が気付けるよう努力している。 ②小さな悩みに耳を傾け信頼関係を築けるよう努力している。 ③コミュニケーションを図りながら関係構築に努めている。 ④傾聴を大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	①利用者様の情報提供を頂き、重ねてご家族の考えや要望・悩みが聞けるように話のしやすい環境づくりをしている。些細なことにも耳を傾けるように努力している。 ②真剣な報告も大切にしているが、時には世間話をしてご家族様とコミュニケーションを図るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	①ユニットのミーティングの時にアセスメントを行い、ご家族様の要望と利用者様にとって現在の必要なケア内容を話し合っている。 ②分からない。 ③利用者様の状態を観察しながら都度話し合いを行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	①洗濯、食事、買い物と協力しながら行っている。信頼関係は深い。 ②同じ一人の人として家族の様な関係を築く努力をしている。 ③一緒に行く様に関係を作っている。 ④お客様扱いはせず、その人を尊重しつつ同居者として接する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	①家族のように何でも言い合える関係になれるよう努めている。 ②家族との関係を大切にしその人らしく過ごせるよう努力している。 ③家族との絆を本人と共に支える関係を作っている。 ④様子の報告など、コミュニケーションを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	①不安になっている時に本人の安心できる人の名前などを会話の中に取り入れ面会時の楽しみにつなげる。 ②関係が途切れないよう支援している。 ③昔の話などを聴いて支援する。 ④訪問者の受け入れ、外出などを勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	①利用者様も一人一人、性格などが違うため、合う人・合わない人がある。自らの関わりはとても良いことだがもめてしまうことがある。そんな時は職員が都度仲介に入るようにしている。 ②孤立しないように無理強いすることはなく利用者同士の関わりを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	①携わっていませんのでわかりません。 ②機会があれば関わりたい。 ③外出先で会えば挨拶している。 ④本人、家族との関係を断ち切らないよう取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	①日々の中でコミュニケーションを図りつつ希望等を把握するようにしている。 ②利用者様と密な関わりをもち、その人らしい暮らしに少しでも近づけるように希望などを把握するように努めている。 ③一人一人の思いや暮らし方の希望に合わせている。 ④思いや意向を傾聴するよう心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	①アセスメントシート等でまずは情報収集し、その後本人より情報収集する。 ②今までの生活と生きてこられた人生に近づけるようにご家族と利用者様より情報収集をしている。 ③生活歴、生活環境を把握している。 ④これまでの暮らし方を尊重しつつ共同生活をしていってもらう。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	①その人らしい一日の過ごし方を把握するように努めている。 ②ちょっとした異変に気付けるよう努力している。 ③一日の過ごし方、体調、心身の現状を把握するようにしている。 ④2～3時間おきの記録を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	①月に一度カンファレンスを行い、職員全員で意見交換及び介護計画作成を行っている。 ②ミーティングで意見交換を積極的にしている。 ③職員で話し合っている。 ④ケアプランの作成を全職員で行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	①個人記録、申し送りノート、夜勤への申し送り等で情報共有できている。 ②記録、申し送りノート、ミーティングで意見交換し、把握に努めている。 ③情報の共有ができています。 ④個別記録の実践に心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	①一人一人に合ったケア計画の実践に取り組んでいる。 ②既存の環境にあぐらをかかずその人に合わせていく。 ③その時のニーズに対応している。 ④サービスの多機能化に取り組んでいる6/12		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	①習字、コーラス、手芸、落語等のボランティアが定期的に訪れている。 ②様々なボランティアに協力して頂き、楽しみをみつけられるよう支援している。 ③役割を持って頂き、安心して生活できるよう支援している。 ④多くのボランティアの方々に協力して頂き、訪問してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	①毎月往診があり、変化があれば都度適切な医療が受けられるよう支援している。 ②毎月往診に来て頂き、いつでも連絡できる体制がある。 ③月一度の往診によりかかりつけ医の支援をしている。 ④毎月かかりつけ医の往診がある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	①看護師といつでも連絡できる環境にあり相談で来ている。 ②利用者が適切に受診できるよう支援している。 ③看護職員が常勤し緊急時は指示をしている。 ④個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	①病院関係者とはなかなか関わる機会がない。 ②今後努力したい。 ③家族と連携を取り施設に戻れるよう情報交換等に努めている。 ④病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	①看護師、リーダー、他職員と話し合い方針を決めている。 ②本人の状態、家族の要望、スタッフの気持ちをくみ取りその人の一番望む終末期を提供した。 ③家族、本人と話しあい、重度化、終末期に向けた取り組みを行っている。 ④地域の関係者と共にチームで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	①緊急時のマニュアルはあるが、緊急時はマニュアル通りにはいかない。状態に合わせて臨機応変に対応できるように日頃から時間がある時は職員同士で指導し合っている。 ②内部の勉強会で実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	①災害時マニュアルがある。 ②内部研修で学ぶ機会がある。 ③防災リュックと備品の準備をし災害時の対策を実施している。(リハパンやパット・薬など) ④地域との協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	①利用者に関わる際は、自分だったらと自分に置き換えて関わるようにしている。 ②一人の人として尊重するよう努めている。 ③プライバシーを侵害しないよう扉の開閉には注意している。声のかけ方や大きさに気配りをしている。 ④それぞれの性格やプライバシーを尊重し接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	①その人らしい生活が出来るように自己決定出来る場面を作っている。焦らせることなく自己決定できるようにする。 ②その人の習慣やペースの把握でその人らしく生活できるよう支援している。 ③利用者への声かけにて自己決定出来るようにしている。 ④自己決定できる環境をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	①職員中心のケアではなく、利用者中心の個別ケアに取り組んでいる。 ②可能な限りその人の要望にこたえられるよう努力している。 ③居室で休んで頂く時にも水分補給などで声かけするようにしている。 ④団体行動を無理強いしないよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	①移動美容室では、本人が望むスタイルを共に考えている。 ②本人が着たい服を着てもらっている。 ③起床時には髪をとかして頂く服も選んでいただくようにしている。 ④ひげそりや身だしなみが自分でできるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	①買い物、調理は必ず共に行い楽しみながら食事できるように支援している。 ②献立から買い物、調理まで一緒に行う事で楽しんで頂いている。 ③職員と買い物に行き、準備の為に材料を切ったり、炒めたり、一緒に行っている。 ④可能な限り参加していただく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	①一人一人の食事量、水分量はまちまちのため、その人に合わせて調整している。 ②摂取量を記録し、全職員が把握できるようにしている。 ③食べる量、栄養を工夫している。盛り付けにはきれいに彩りよく食が進むように気をつけている。 ④食事、水分摂取量を毎回記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	①食後は力量に合わせて必ず口腔ケア支援を行っている。 ②毎食後、必ず口腔ケアを行っている。 ③ご自分でできる方、声かけして口腔ケアも行っている。介助を行う方には介助をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	①排泄パターンを把握したうえでトイレ誘導を行っている。 ②定期的に、声かけや誘導を行っている。 ③利用者様のパターンに合わせてトイレ誘導を行っている。 ④それぞれの排泄パターンを記録し、自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	①便秘に対して、食物繊維の多い食べ物、水分摂取の促し、軽い運動を行いさらに下剤を併用しコントロールしている。 ②食事や運動を行ったうえで、看護師指示のもと下剤を使用している。 ③水分補給、食物などに気をつけている。 ④毎日、適度に運動している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	①快適に入浴できるような促し方、入りたいと思う環境作りを行っている。 ②希望があれば24時間、入浴可能状態。入浴剤や音楽等でリラックスできるよう努めている。 ③入浴日に拘らず要望があれば入浴できるように努めている。 ④個々に沿った支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	①不安な状態の場合、安心して眠れるよう傾聴し、共に時間を過ごすよう心がけている。 ②眠りが浅い時は足浴を施行している。 ③季節に合わせた寝具を使用し環境づくりに努めている。 ④昼夜逆転しないよう働きかけている。日中の活動を程良く行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	①複数の薬の相互作用、副作用に注意し、変化がみられた場合、すぐに対応できるよう見守り支援を行っている。 ②服薬の目的を理解するように今後努力します。 ③新たに加わった薬は特に注意して観察している。 ④症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	①得意分野をみつけ、活気ある生活の提供に努めている。また、活躍できる場面を作っている。 ②笑顔ある生活を心がけている。 ③ADLIに合わせて役割作りをしている。 ④時にはマンツーマンで外出する。買い物等		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	①ランチ、喫茶、遠足では利用者の意見を聞きながら計画を立てている。 ②外出は可能な限り積極的に計画している。 ③外出時は楽しめるような声かけをしている。 ④毎月一回の遠足、ランチ、ドライブなどの外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	①一緒に買い物に行き、好きなものを買える環境を作っている。金銭管理は職員で行っている。 ②本人が欲しいものは可能な限り購入して頂いている。 ③金銭管理は職員でしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	①希望があれば出来る限り添えるよう努力している。 ②可能な限り協力していきたい。 ③なかなかできていない。 ④本人が希望するのであれば支援する。 ⑤電話する相手への配慮も考えながら可能な限り支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	①季節に合わせて、遠足に行くと同時に写真等で壁紙を作っている。習字は季節に合ったものを作成している。 ②季節に合わせた飾り、遠足の写真等、見て楽しめるよう努めている。 ③不快感のないように努めている。 ④共有空間の環境に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	①配置等に注意しながら空間作りしている。 ②その人のペースに合わせた生活に努めている。 ③思い思いに過ごせるよう配慮している。 ④レクリエーションなどの参加に無理強いせず、本人の意志を尊重する。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	①馴染みのものを取り入れて少しでも安心できる居室の配慮に努めている。 ②使い慣れた違和感のない生活を送って頂けるよう努めている。 ③本人の好みに合わせている。 ④本人や家族の意見を取り入れている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	①安全に歩行、移動できる環境づくり、手すりの充実。 ②既存の環境に甘えず、その人に合った環境づくりを心掛ける。 ③自立に向け手すり等の工夫がある。 ④安全な環境づくりを心掛けている。		